

第4回「（仮称）八王子市自転車利用環境整備計画」
策定に向けた懇談会

（仮称）自転車利用環境整備計画 の策定について

平成28年5月24日



◆ 目 次

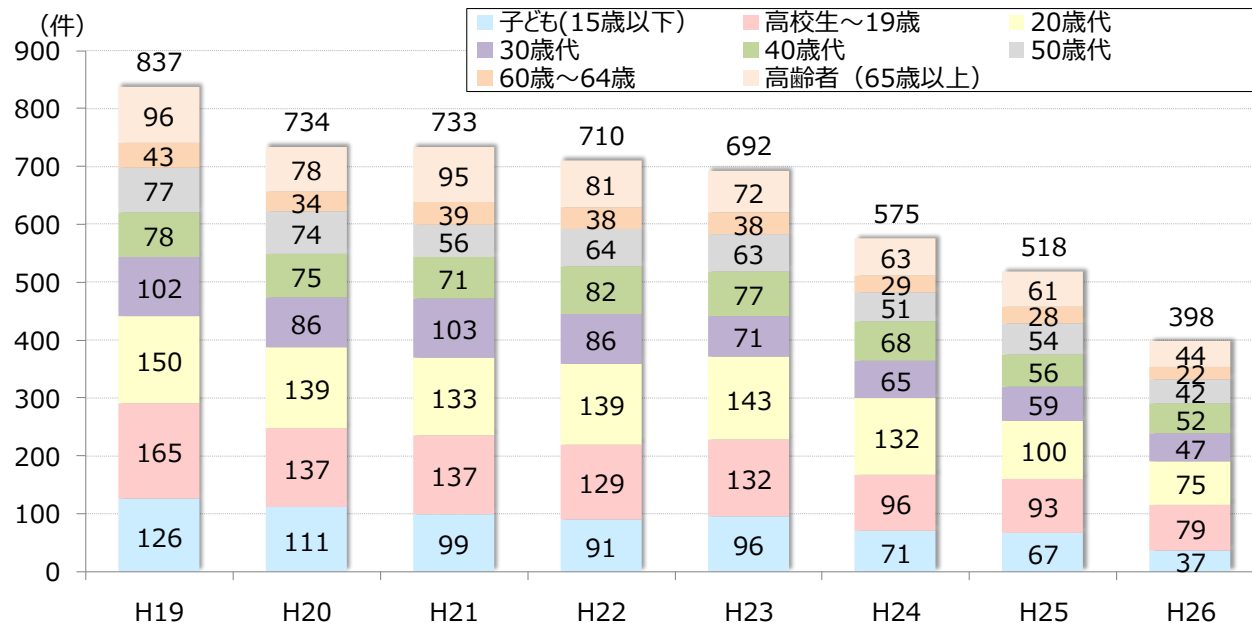
1．計画の概要

2．今後のスケジュール

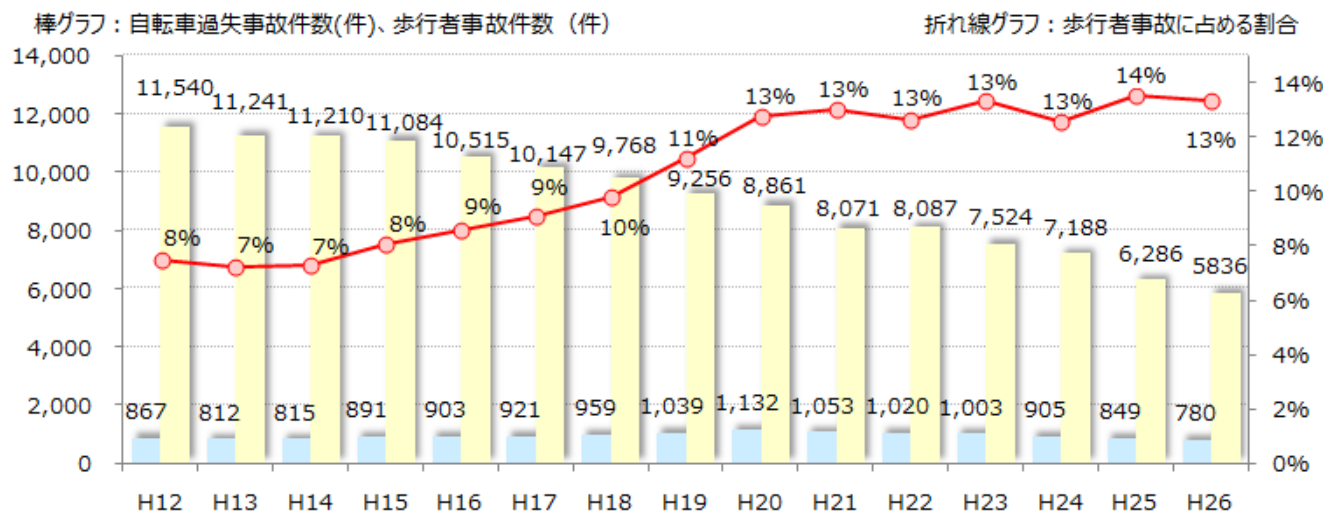
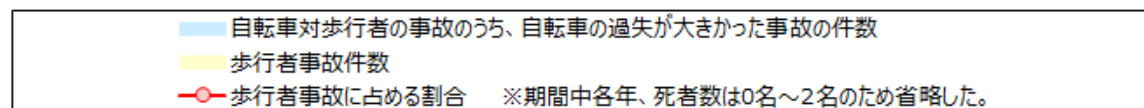
1. 計画の概要



■ 現況と課題（自転車関連の事故）



自転車事故は減少傾向にあるものの、歩行者事故に占める自転車に過失のある事故の割合は年々増加。



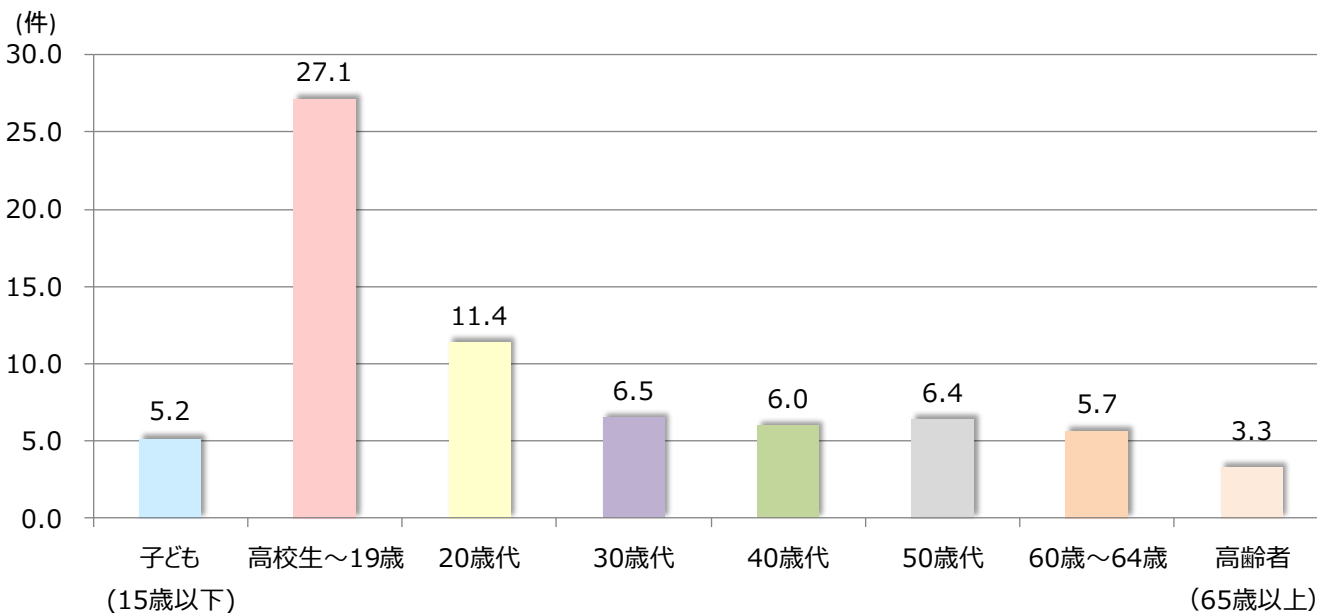
■ 現況と課題（ルールに基づく自転車の安全利用）



自転車交通安全教室



自転車ヘルメット購入費助成



人口1万人当たりの事故件数(平成26年度)

体系的段階的な安全教育をおこなっているものの、事故の多い高校生～20代へのさらなる安全教育が課題。高額な賠償責任が発生しており、保険の加入促進が必要。

赤色TSマーク 貼ってある? 最高5000万円の保険が付いて安心
自転車整備のプロによる点検・整備で安全

平成26年10月1日、赤色TSマーク付帯保険が変わりました

賠償責任保険金(限度額) **2000万円 → 5000万円** 改定

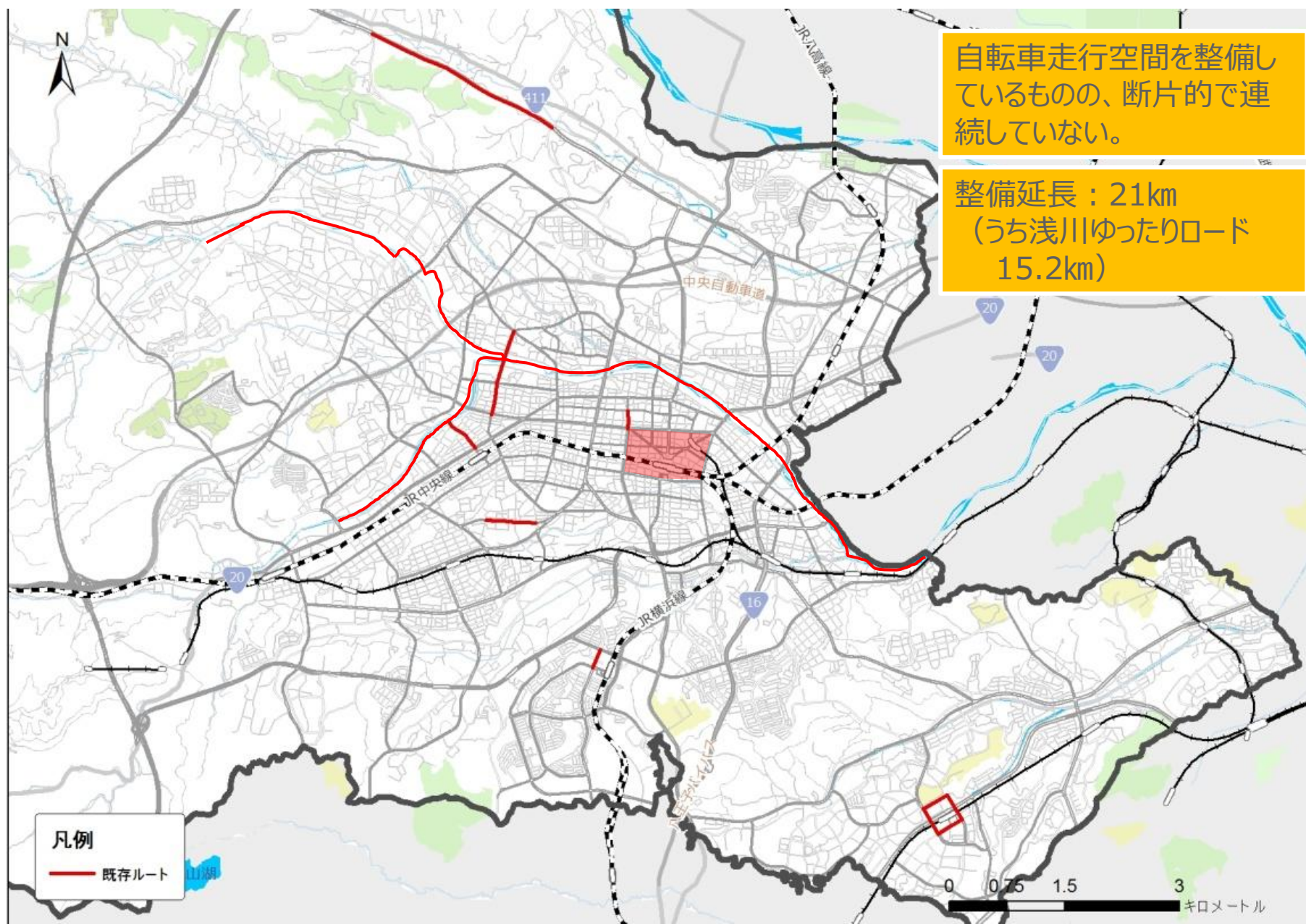
被害者見舞金(新設) **一律 10万円** (15歳以上の入団が対象です。)

TSマークは、自転車安全整備店での点検・整備を受けたうえで貼付できます。賠償保険の補償内容は取次ぎとなります。

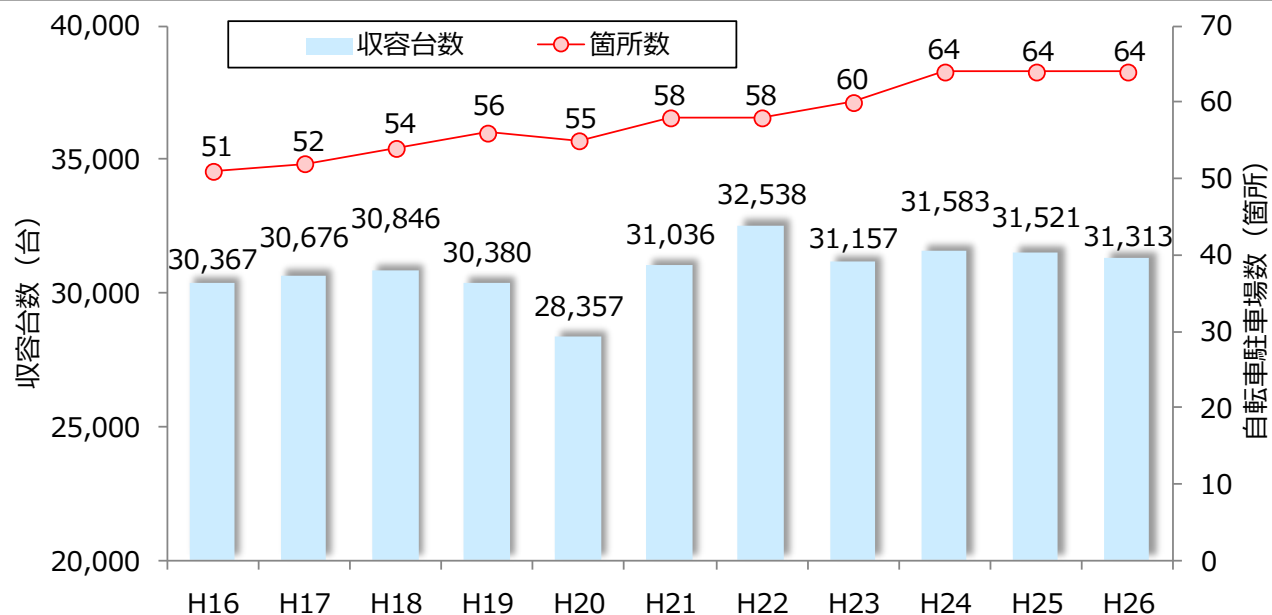
公益財団法人 日本交通管理技術協会

出典：
公益財団法人日本交通管理技術協会

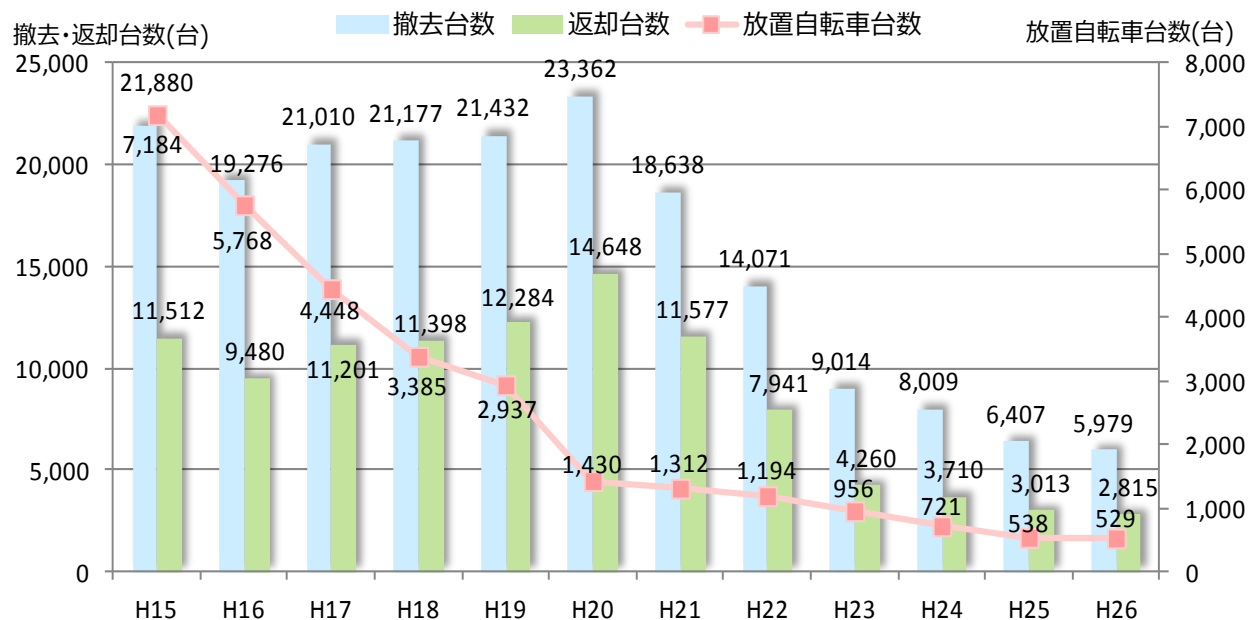
■ 現況と課題（自転車走行環境の現状）



■ 現況と課題（放置自転車対策・自転車駐車場整備）



自転車駐車場や歩道上の自転車駐輪帯の整備などにより、放置自転車台数は大幅に減少しているものの、依然として放置自転車は発生している。



■ 現況と課題（新たな自転車利用に対するニーズ）

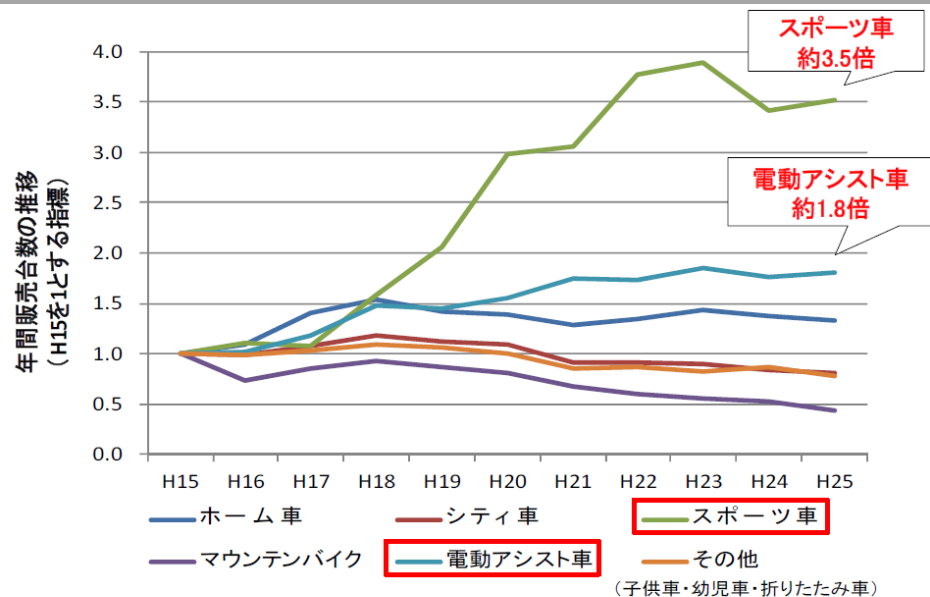
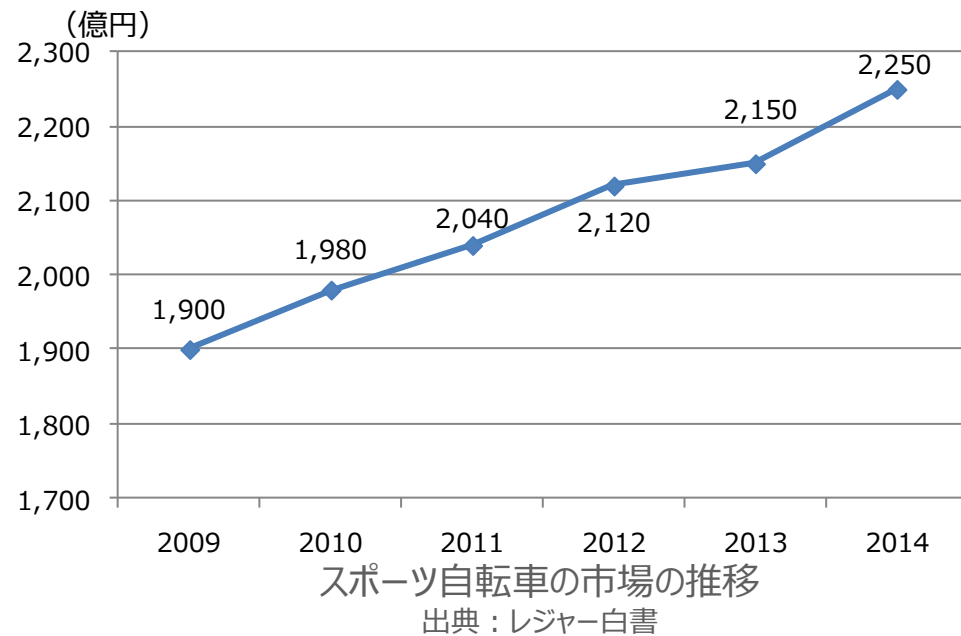


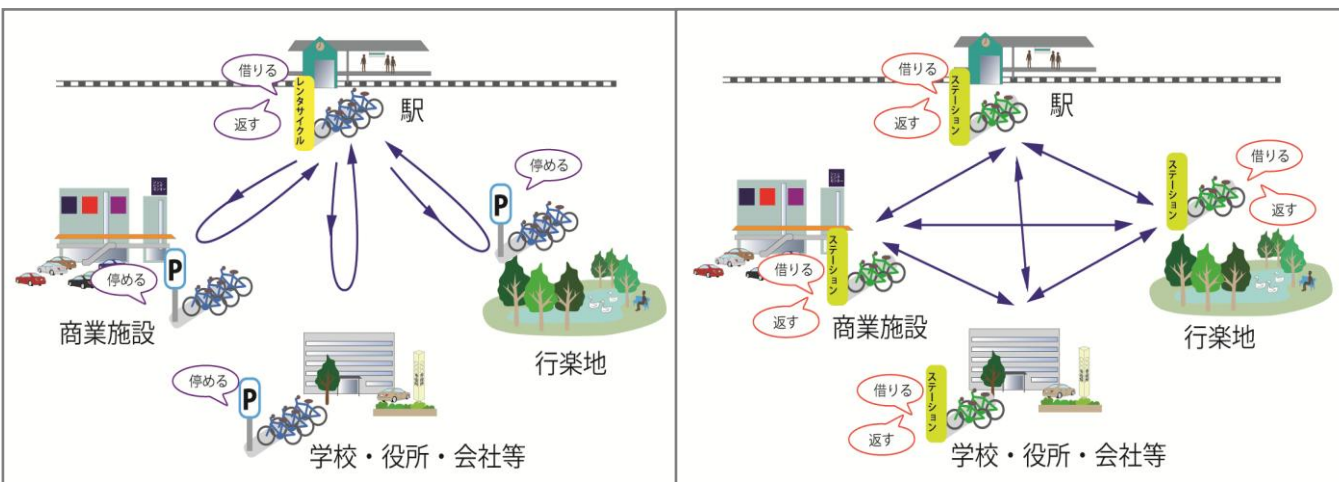
図3 1店舗あたりの車種別販売台数の推移

【出典】(財)自転車産業振興協会 自転車国内販売動向調査



スポーツサイクル等の自転車を楽しむ利用が増加しており、市のPRや安全利用の啓発、利用者支援の施設整備が必要。

コミュニティサイクルなどの自転車の共同利用については、導入目的や効果など調査し、新たな自転車利用のあり方の検討が必要。



レンタサイクル (左) ・コミュニティサイクル (右) のイメージ

■ 基本目標

交通マスタープランに
おける自転車施策の
基本的な考え方

①自転車走行環境の
整備

②放置自転車対策・
自転車駐車場対策

③ルールに基づく
自転車の安全利用

④楽しむ

施策方針

基本目標 1 あんぜんに自転車を利用しよう

～ハード・ソフト両面で安全な利用環境を整えます～

・ハード面における自転車ネットワークの整備

・ソフト面における安全な自転車利用の促進
(利用ルールの普及・啓発 等)

基本目標 2 かしこく自転車を利用しよう

～多様な連携を通じて規模に頼らない利用環境を整えます～

・利用に則した適正な規模と配置
(自転車駐車場、自転車駐輪帯の整備 等)

・公共交通との連携強化
(サイクル・アンド・バスライド 等)

基本目標 3 たのしく自転車を利用しよう

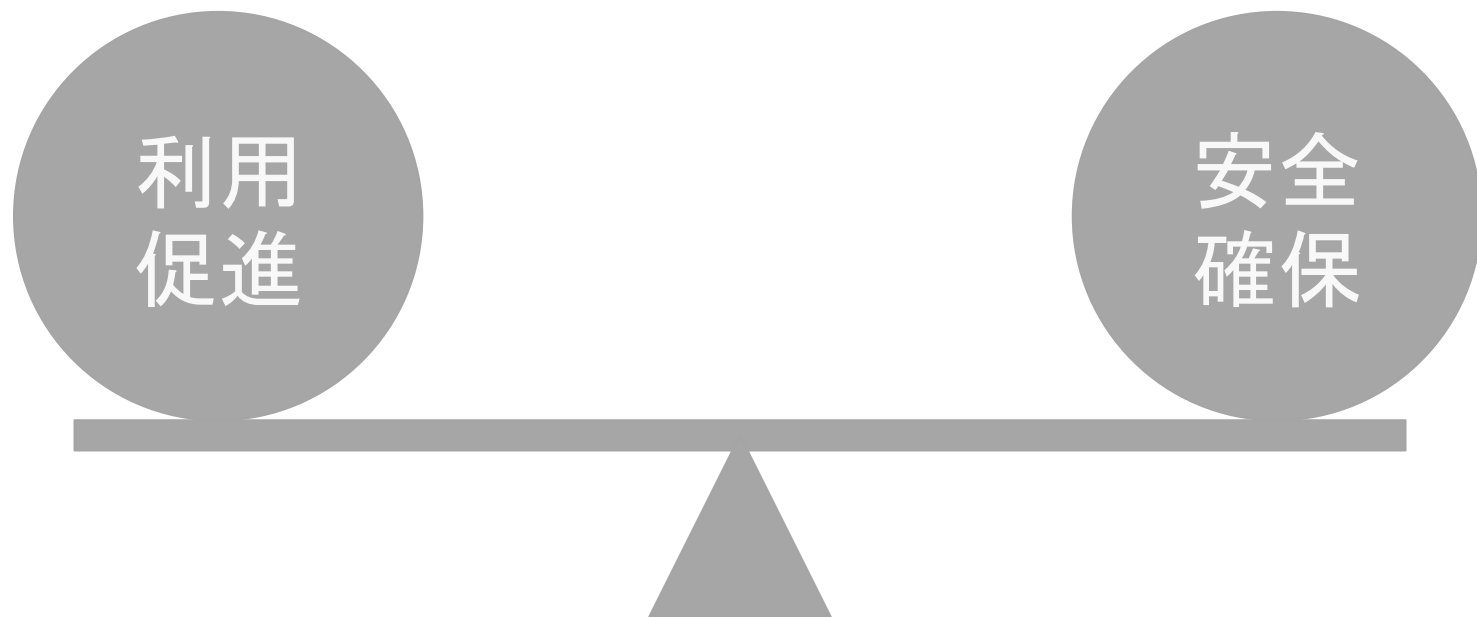
～スポーツや観光を通じて楽しめる自転車利用環境を整えます～

・スポーツサイクル利用者支援施設の整備
(休憩・メンテナンス機能の充実)

・観光や健康に係る情報発信

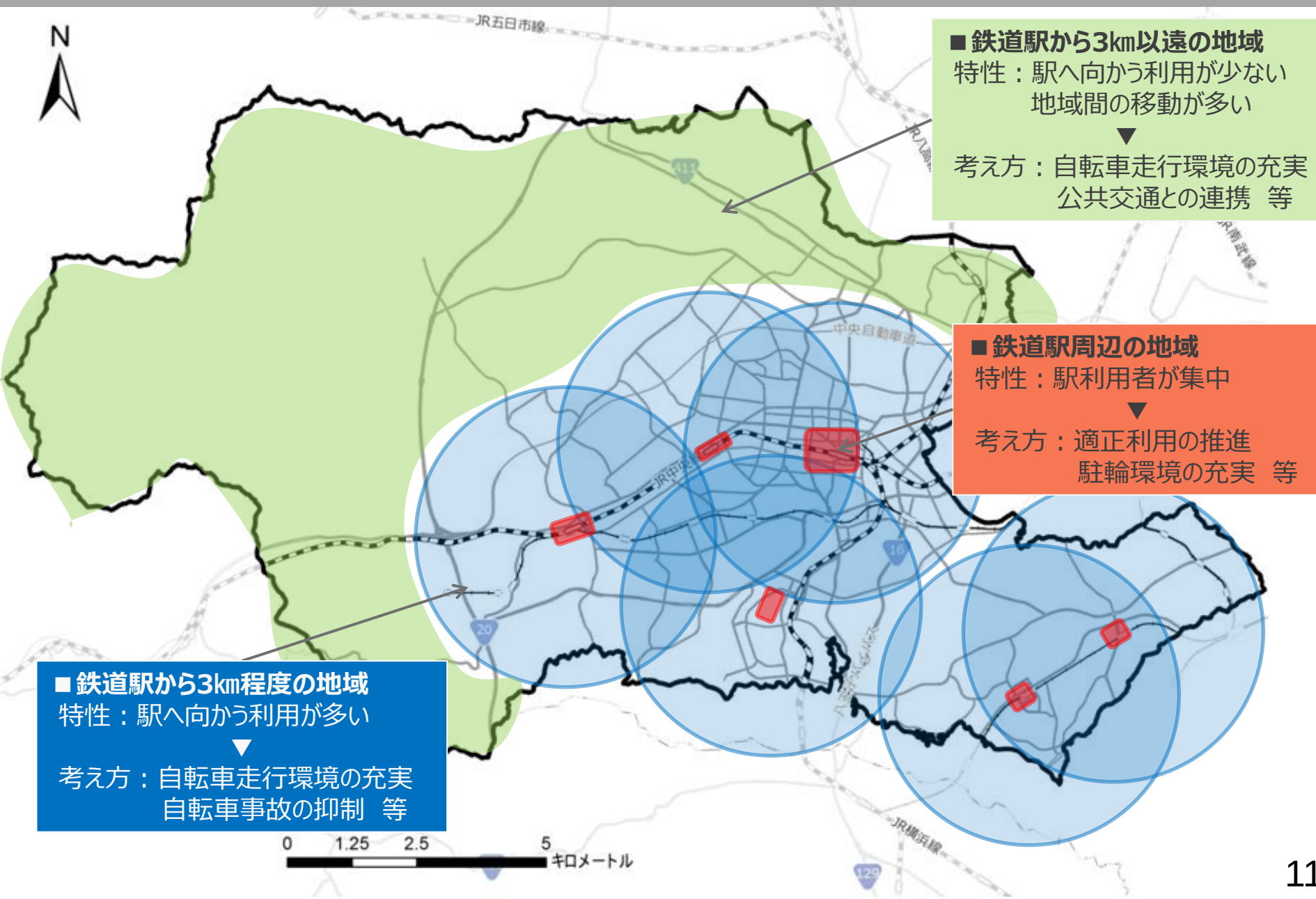
・自転車の共同利用の促進
(コミュニティサイクル、シェアサイクル)

■「利用促進」と「安全確保」のバランス

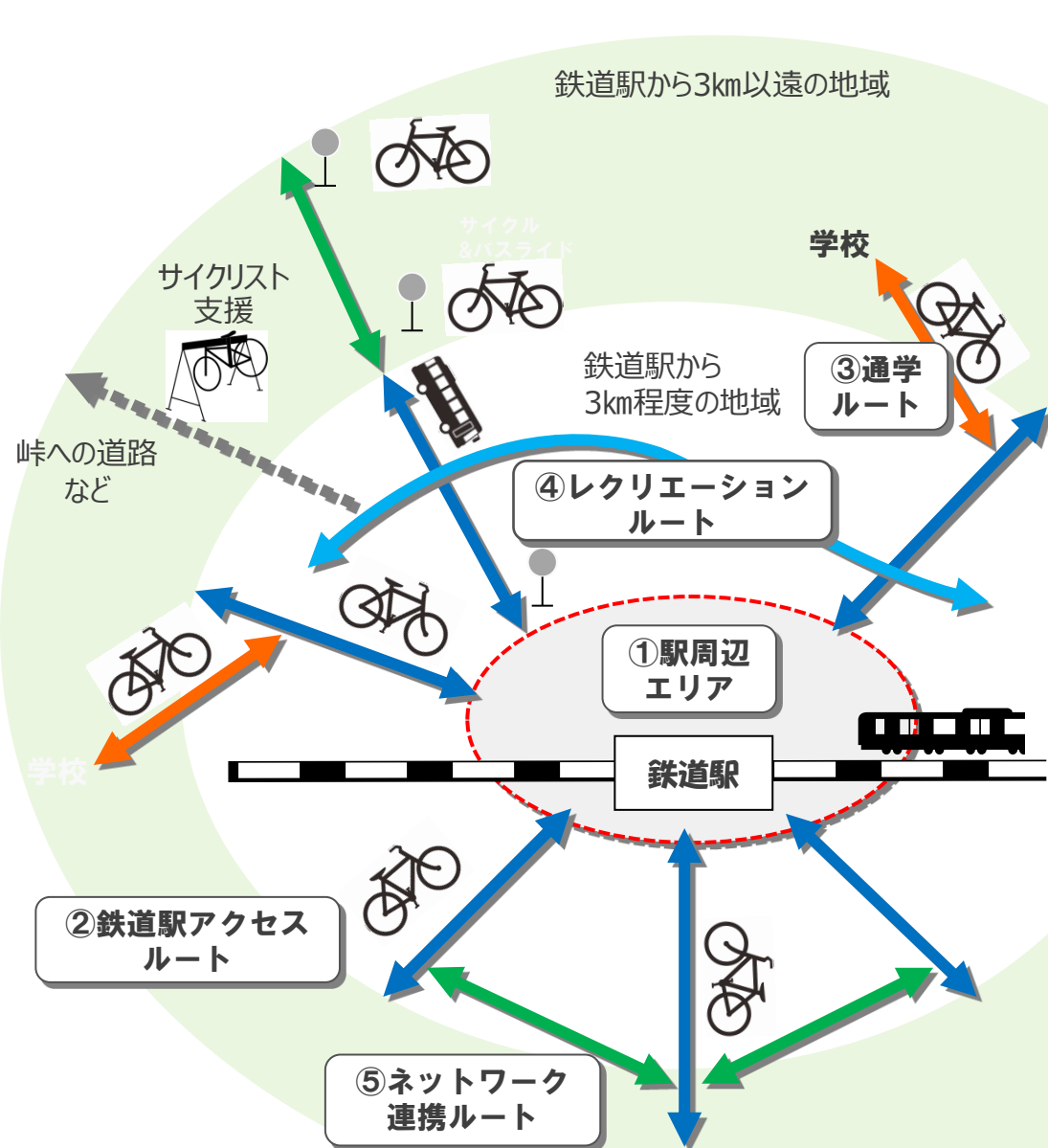


相反しない施策展開

■エリアの特性にあわせた自転車計画の考え方



■ 利用特性にあわせた自転車計画の考え方



利用特性ごとのルート区分	考え方
①駅周辺エリア 駅周辺の市街地において、様々な交通モードが集中するルート、通勤・通学・買い物利用など自転車利用も多岐にわたるルート。歩行者が多く安全な歩行空間確保も課題。	・様々な交通モードが集中し自転車事故も多いため、安全性に十分配慮した自転車環境の整備 (面的な自転車利用環境の整備、自転車駐車場の整備)
②鉄道駅アクセスルート 通勤・通学を目的に鉄道駅周辺の駐輪場等へのアクセスルート。一方向の利用が卓越。朝夕の利用が主。	・安全な自転車走行環境の整備
③通学ルート 市内の学校への通学を目的としたルート。一方向の利用が卓越。主な対象者は限定される。	・安全な自転車走行環境の整備 ・学校と協働した安全対策
④レクリエーションルート 浅川ゆったりロードに代表される、河川沿い等をゆったりと散策するルート。朝夕の通勤・通学にも利用される。	・歩行者の安全に配慮した河川沿いのルートの整備 ・様々な利用者と共有するための安全啓発
⑤ネットワーク連携ルート 各ルート間を結ぶことによりネットワークを連携し、利便性を高めるためのルート。利用者の選択性を高め分散化を図る。	・①～④のルートを繋ぐ走行環境の整備 ・それぞれのルートから、利用が集中する施設への走行環境の整備

■ 施策体系

基本目標1 ◆あんぜんに自転車を利用しよう

- (1) 自転車走行空間ネットワークの形成 **新規取組 1**
- (2) 社会実験の結果をふまえた自転車走行空間のあり方の検討
- (3) 様々な手法による自転車走行環境の整備推進
- (4) 河川沿い自転車走行空間の整備推進
- (5) 学校・事業所・警察等との連携による自転車の安全教育の推進
- (6) 自転車販売店との連携による自転車安全利用の推進 **新規取組 2**

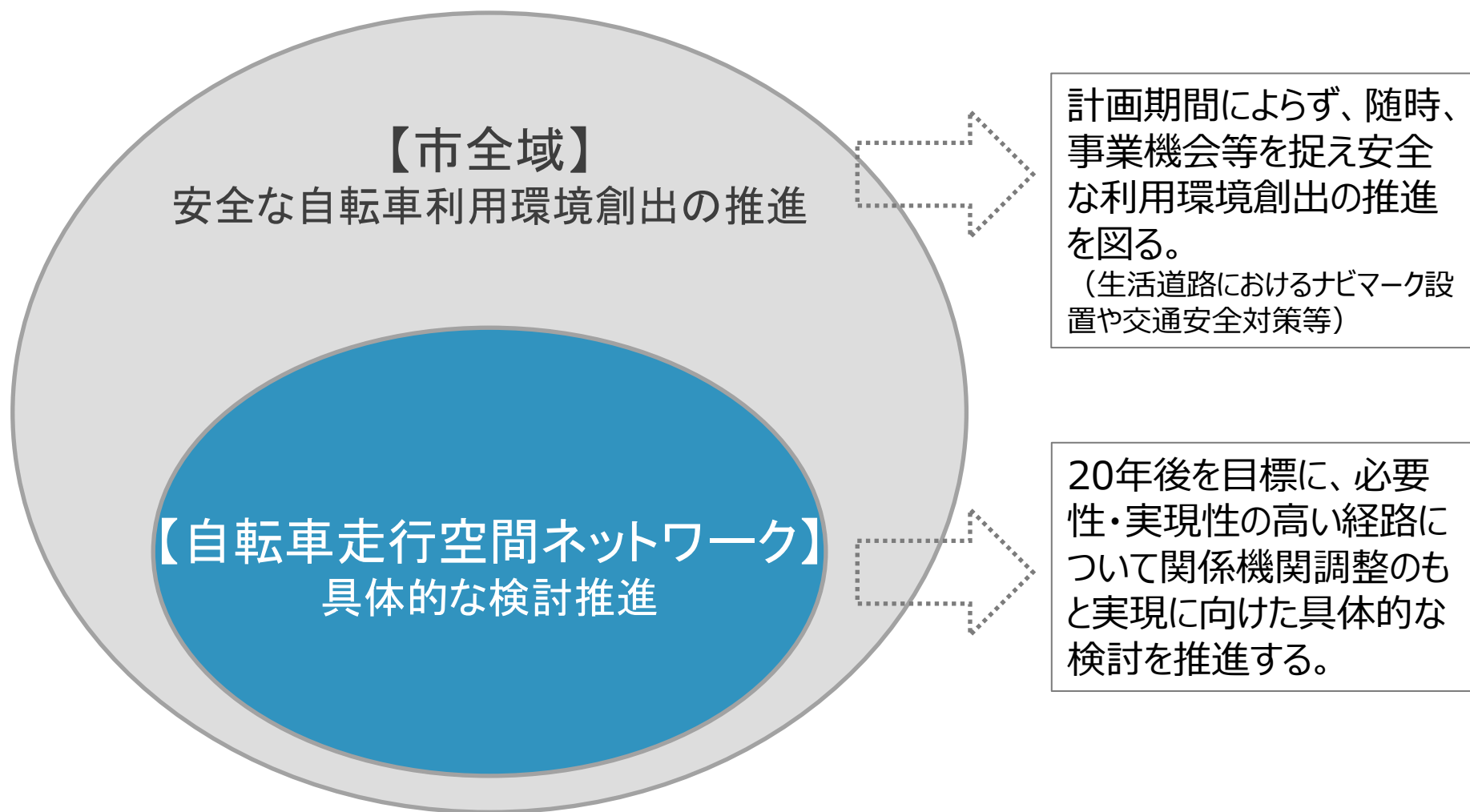
基本目標2 ◆かしく自転車を利用しよう

- (1) 放置自転車対策の推進
- (2) 自転車駐車場、自転車駐輪帯の整備推進
- (3) 自転車駐車場の利便性向上 **新規取組 3**
- (4) 附置義務自転車駐車場の整備促進
- (5) サイクル・アンド・バスライド推進

基本目標3 ◆たのしく自転車を利用しよう

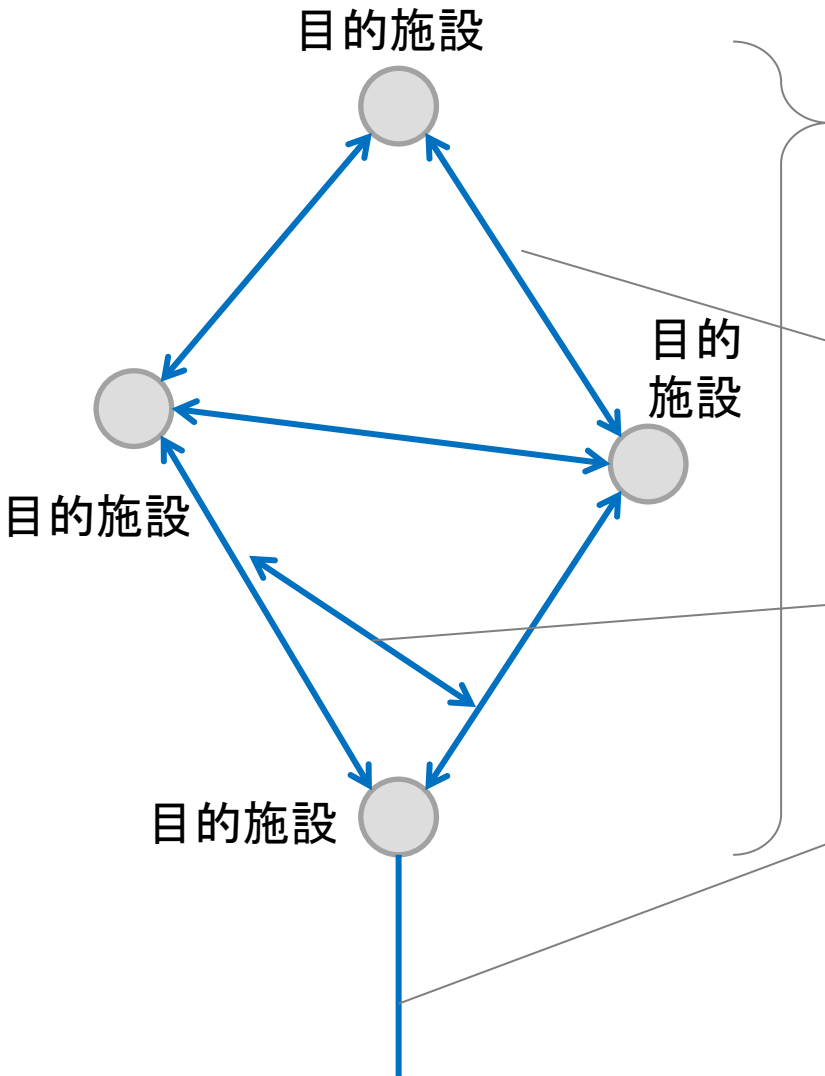
- (1) サイクリスト向け情報発信の強化（観光、市PR、安全利用） **新規取組 4**
- (2) サイクリスト支援施設（休憩・メンテナンス機能等）の導入検討 **新規取組 5**
- (3) コミュニティサイクルの導入検討 **新規取組 6**

■ 自転車の走行環境整備の推進方策



国のガイドラインが改定予定であり、本改定に基づく市の整備方針を別途定め、本方針に基づき上記整備推進を図る。

■ 自転車走行空間ネットワークの経路選定の視点



視点①【接続】施設間を結ぶ

市の中で自転車利用が多い施設・地区として鉄道駅周辺や教育施設、商業施設、大規模な住宅地等があります。これらを効果的に結ぶ経路を選定します。

視点②【連続】連続性がある

市内部での自転車走行環境整備は一部区間のみであり連続していない箇所が多くあります。連続的な経路確保の視点から経路を選定します。

視点③【代替】代替性がある (選択性がある)

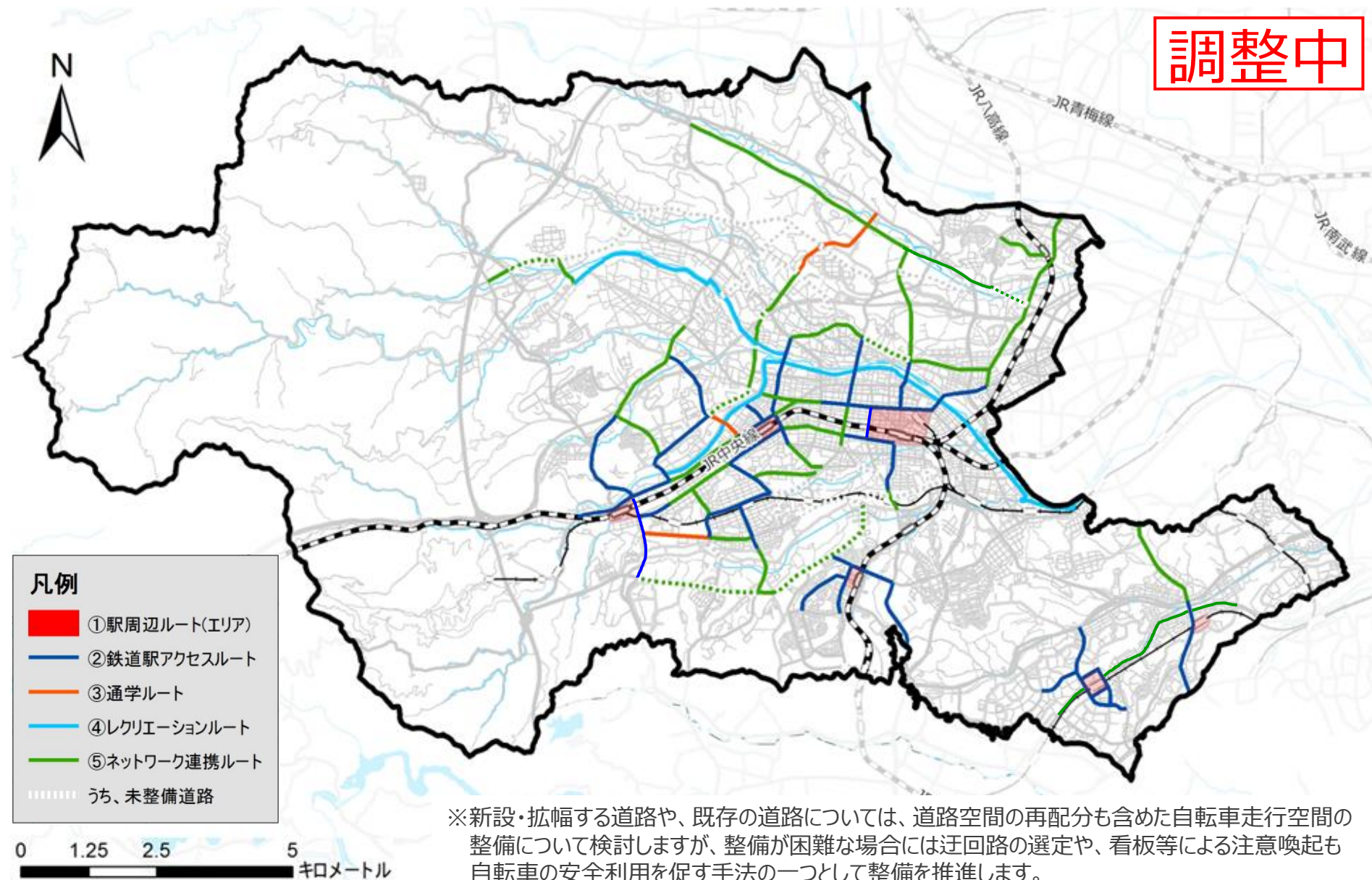
鉄道駅周辺等では多方面からの自転車利用が集中しています。特定の路線への集中を避けるため、利用の代替性（選択性）を考慮した経路を選定します。

視点④【利用】経路そのものに 利用の意味がある

市では浅川等でレクリエーション目的の自転車利用が多い状況です。利用する経路そのものが利用の目的を持つ場合があり、そのような経路も選定します。

■ 自転車走行空間ネットワーク

調整中



■ 自転車走行空間ネットワークにおいて想定される主な対応

■ ハード面での対応

- ・自転車走行空間の整備
⇒安全に走行できるルートとして推奨

■ ソフト面での対応

- ・機会を捉えた自転車ネットワークの走行方法の指導
- ・警察等と連携した街頭指導
- ・自転車ネットワークや主要施設等を表示した自転車マップの作成
⇒安全な走行方法の指導や自転車利用者の誘導

■ 走行空間の整備手法

■ 整備手法の考え方

- ・安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン、東京都自転車走行空間整備推進計画に基づいて整備手法を選定。
- ・自転車は「車両」であり、**原則車道通行**とする。
- ・自動車の交通量や法定速度が高い場合など、自転車利用者の安全が図れない場合は、**歩道上の整備**についても検討する。

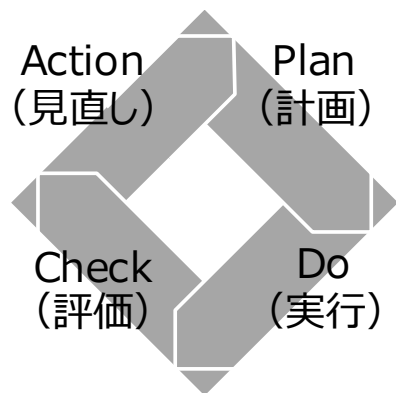
■ 整備手法の選定

- ・交通状況と道路幅員から整備手法を選定する。
- ・整備手法選定フロー(案)を作成し、平成28年度の実証実験にて検証を行う。

■ 基本目標ごとのモニタリング指標

基本目標	モニタリング指標	現状値	目標値
<基本目標 1> あんにんに自転車を利用しよう ～ハード・ソフト両面で安全な 利用環境を整えます～	①自転車走行空間の整備延長	21km	60km
	②自転車安全講習会の参加者	64人	1,564人 (H37までの累計値)
	③自転車事故件数	398件/年	383件/年
<基本目標 2> かしこく自転車を利用しよう ～多様な連携により、適正な 利用環境を整えます～	④自転車駐車場利用率	80%	90%
	⑤郊外バス停付近 放置自転車台数	93台	60台
	⑥放置自転車台数	529台	480台
<基本目標 3> たのしく自転車を利用しよう ～スポーツや観光を通じて楽しめる 自転車利用環境を整えます～	⑦サイクリスト支援施設	0箇所	5箇所

■ P D C A マネジメントサイクルによる進行管理



- Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（見直し）というPDCAマネジメントサイクルにより、継続的な点検・評価・見直しを毎年実施します。
- 毎年点検・評価を実施しながら、平成37年には、全施策に関する点検・評価・改訂を行う。
- 自転車に関する法令の改正、ガイドラインの改定などがあった場合には、必要に応じて本計画の見直しについて検討します。

期間	計画期間										次期計画									
	前期					後期					長期									
年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
(仮称)八王子市自転車利用環境整備計画			評価検証					評価検証						評価検証・改定					評価検証・改定	
八王子市交通マスタープラン			評価検証					評価検証					評価検証・改定						評価検証・改定	

見直し・検討

2. 今後のスケジュール



■ 今後のスケジュール

	平成28年度							
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
計画検討	素案作成				●	策定・公表		
懇談会	●							
庁内検討会・幹事会	●							
都市経営戦略会議	●	素案 (付議)						
都市環境委員会		●	素案 報告					
パブリックコメント			↔					
計画実行								